

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol drinking and gastric cancer risk; an evaluation based on a systematic review of epidemiologic evidence among the Japanese population</p> <p>飲酒と胃ガン発症リスク：日本人における疫学的エビデンスの系統的レビューによる評価</p>	
執筆者	
<p>Shimazu T, Tsuji I, Inoue M, Wakai K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Tsugane S; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan</p>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Jpn J Clin Oncol 38(1): 8-25, 2008	
キーワード	
系統的レビュー、疫学、飲酒、胃ガン、日本人	
要 旨	
<p>背景： 日本人集団における飲酒と胃ガンの関連についての疫学研究論文をレビューした。本報告は、健康に関連する生活習慣とガンの関連についての既存のエビデンスを評価する我々研究グループの一連の報告をなす一編である。</p> <p>方法： 文献検索は、PubMed を用いた MEDLINE の検索、あるいは医中誌データベースの検索を、マニュアル検索で補完して行った。関連の評価は、エビデンスの強さおよび関連の強さに、国際ガン研究所による生物学的蓋然性の評価を加味して行った。</p> <p>結果： 11 のコホート研究のうち 9 つの研究では飲酒と胃ガンの間に関連を認めなかった。1 つの研究で、男性において強い正の関連を認めた。11 の症例対照研究すべてで、飲酒と胃ガンの間に関連を認めなかった。胃ガンの解剖学的な研究のうち、3 つの研究で飲酒と胃ガンの関連を評価したが、1 つのコホート研究が、男性における噴門部と上部 1 / 3 胃体部のガンの正の関連を認めた。日本人集団における研究では、喫煙や食習慣、胃ガンの解剖学的発症部位と同じく重要な交絡因子である飲酒についての詳細な評価を行っているものが、少なかった。</p> <p>結論： 日本人集団における飲酒と胃ガン発症の関連についての疫学的エビデンスは、研究の方法に問題があるため、十分ではないと結論づけた。</p>	